

目黒稲門会会報



(題字：眞仁田 勉 初代会長)

第50号 2011年 3月

発行人：大野 利幸 編集長：服部 尚彦 事務局長：小杉 哲
事務局：〒152-0023 目黒区八雲4-9-14 Tel 090-7825-6270

2011年新年会 盛大に開催

2011年の目黒稲門会新年会が、1月16日(日)目黒雅叙園に於いて盛大に開催された。会場には来賓・会員とその家族合わせてこれまで最多の88名が集まり新年を祝った。

石川智子幹事の司会により冒頭挨拶に立たれた来賓の青木英二目黒区長から、昨秋来の大学スポーツでの早稲田フィーバーが今年も続くことを願っているとのお話を頂いた後、第1部の新春講演会に入った。

始めに浅海敏之相談役により、当日の講演をお願いした元早稲田大学ラグビー蹴球部監督・清宮克幸氏の紹介があり、登壇された清宮氏から「栄光の早稲田ラグビー・・・勝ち続けるためには」と題してご講演を頂いた。

1年の時から早大ラグビーの中心選手として活躍された同氏のお話は、直前に行われた全国大学ラグビー選手権で帝京大学に惜敗してしまったとはいえ、折しも六大学野球・箱根駅伝とあわせ、大学スポーツのビッグイベントに関心が高まっている時でもあって、参加者全員興味深く耳を傾けた。

同氏は講演の中で、「自分は勝負強いと自負しているが、ラグビーに於いても勝ちに敏感な選手が何人いるかで勝負が決まるものだと思っている。練習してきたことだけを忠実に実行するだけでなく、勝負の匂いを感じて対応することが勝ちにつながる。今年の大学ラグビーも、下馬評は早稲田有利であったが、帝京大の想定以上の戦略に機敏に対応出来なかったのが敗因。今年は、主力選手を始めとしてチーム内に勝負勘があるように感じられなかった。」

—☆—

「ラグビーの魅力は体を張ってボールを護る・味方を守るところにあると思う。そういう競技に身を置くと、私生活においてもそういう行動になるものかもしれない。」

高校生の時のニュージーランドから始まり南アフリカ・ロシア・モンゴル、その後エール大学・オックスフォード大学とラグビーをしながら法律の勉強を続け、いま東欧で国際弁護士をしているラグーマンがいる。体を張って自ら道を開いていく見本のような仲間



である。

サントリーの監督時代にチームスタッフとして力を貸してくれた村田信之氏(目黒稲門会会員)もそうした仲間の一人であり、イラクでテロの凶弾に倒れた外交官の奥克彦氏も日本のために自ら体を張って進んでゆく型の、大事な早稲田ラグビーの先輩であった。」

—☆—

「自分はラグビーを、いい涙を流すためにやっていると思っている。」

特に、決勝前日の上井草のグラウンド。そこでは日本で一番熱いラグビーの試合を見ることができる。

4年間ファーストジャージ(レギュラー)を目指して来ながら夢果たせず、翌日の決勝戦に出られない選手達の試合が1試合だけ行われるのである。この試合こそが早稲田ラグビーのプライドと魂を感じさせられる試合だと思う。自分たちは明日の決勝戦には出られないが、決勝戦に出る仲間へ4年間のすべての思いを託して戦うのである。上井草グラウンドの選手・観衆に4年間の様々な思いが去来して、最後は皆感極まってしまう。人は自分の為よりも仲間の為に、より大きな力が出せるものだと実感させられる貴重な場だと思う。」

—☆—

「自分はこれまで、早稲田・サントリーと人気も実力もあるチームでやってきたが、来シーズンは今までとは違ったカラーのチームへ行行って、弱いチームを強く育てるというような、違った角度からラグビーに取り組んでみたいと思っている。」

—☆—

同氏は最後に「今年は9月にワールドカップ、11月には早慶戦と続く。いい選手が卒業してしまったあとではあるが、残った選手がきっと頑張ってくれると思うので、ぜひ声援を送っていただきたい。目黒稲門会に、ラグビーファンが沢山きたら嬉しく思う。」と話を結ばれ、ラグビー愛一杯の熱血講演が終了した。



続いて第2部の懇親会に入り、初めに大野利幸会長から、新年の祝辞とともに「昨年は事務局も充実し、会員も着々と増えているし、各部の活動も一段と活発になっているように思う。校友会に出席すると他地区の稲門会から目黒稲門会の活発な活動について参考になりたいとよく言われる。これも歴代会長のご尽力のお陰であるといつも言っているが、嬉しいことである。

今年も大いに楽しく活動して、校友会から期待され目標とされるような、一段と飛躍した目黒稲門会を目指したい。」と挨拶があり、島田久家会計監査役の発言による乾杯で歓談に入った。

当日は加藤榮護相談役・浅海敏之相談役・後藤克彦副会長寄贈の銘酒も用意され、程良くアルコールが入るにつれ各テーブルとも大いに談笑の花が咲いた。

宴半ば、司会の石川幹事から、「目黒稲門会会員で米寿をお迎えになられた先輩が4名おいでになり、本日は阿部喜久雄相談役と樋口定廣相談役が出席しておられるので、ささやかながらお祝いをしたい」と話しが出され、万場の拍手に促されて壇上に進まれた両相談役に対し中上美代子幹事・中西千可子幹事から花束が贈呈された。両相談役のユーモアあふれる答礼もあって、会場はさらに一段と盛り上がった。



歓談の進む中、新年会初参加の山木宏之氏、村田信之氏、河村晋彦氏の紹介並びに挨拶があった。

予定の時間が迫ったところで、恒例となった松田哲也会員の元気一杯のリードで校歌を斉唱、服部尚彦副会長の中締め挨拶と続き、盛会のうちにお開きとなった。

今年一番の寒さとなった真冬の日であったが、ひと時それを忘れさせる賑やかな新年会であった。

(地田 記)



新年会初参加会員（左から河村、山木、村田の諸氏）

新年会出席者（敬称略、五十音順）

（来賓）

青木英二・目黒区長、清宮克幸・講師、

（会員）

浅海敏之、阿部喜久雄、荒瀬修一郎、安藤 孝、安藤虎雄、安藤嘉昭、石川智子、石川純子（母上）、市瀬一江、市瀬達夫、伊藤源喜、伊藤 悠、稲垣博信、井村正陽、岩佐幸子、岩佐好恭、岩崎春雄、岩崎正夫、鶴野洋治、海口昭治、大久保健治、大杉邦雄、大野利幸、大野幸子（夫人）、大山高明、小倉利充、海沼美智子、影山信輝、笠谷興一郎、梶 恵作、柏木 博、加藤榮護、加藤玲子（夫人）、川井信義、川崎真樹子、河村晋彦、小池早苗、郡山弘文、郡山富子（夫人）、小杉 哲、後藤克彦、小林 彰、桜井輝隆、佐々木芳子、佐藤喜孝、嶋田勝彦、島田久家、下村尚久、庄野 耕、高橋圭吾、田島順一郎、田畑 繁、地田博昌、千野逸平、手塚仁雄、外岡 明、外岡ルリ子（夫人）、永井正孝、中上美代子、長島清志、中西千可子、中西元樹、服部尚彦、林田雅敏、林田敏子（夫人）、樋口定廣、樋口俊彦、星野聡史、堀井良造、牧野武夫、松尾洋一、松田哲也、眞仁田勉、村上 柁、村上 満、村田信之、森家一三、保井 正、山木宏之、山木伽予子（夫人）横山 大、吉田成孝、吉田博行、吉本政治、渡邊三郎、大橋ヒデ子（友人）

☆☆☆☆☆



旅行部会「佐渡の旅」

目黒稲門会会報



(題字：真仁田 勉 初代会長)

第49号 2010年 12月

発行人：大野 利幸 編集長：服部 尚彦 事務局長：小杉 哲
事務局：〒152-0023 目黒区八雲4-9-14 Tel 090-7825-6270

2011年 新年会開催のご案内

2011年新年会を1月16日(日)目黒雅叙園において後記の通り開催します。

恒例の第一部講演会では、早稲田大学ラグビー蹴球部前監督並びにサントリーラグビー部前監督・清宮克幸氏をお招きして「栄光の早稲田ラグビー・・・勝ちつづけるためには」と題して新春に相応しいご高説を拝聴することと致しました。ご家族を含めて多数の皆様のご参加をお待ちしております。

特に、年会費をご負担されながら目黒稲門会の様々な活動に参加されていない会員の皆様、この新年会は思い切って参加される良い機会と思われまふ。素晴らしい講演を聴き、母校の雰囲気を感じ、また懇親会ではすぐに仲間が出来ます。趣味の部会活動にも参加する良い契機にもなります。奮ってご参加下さいませ様お待ちしております。

記

- 1) 日時 : 2011年1月16日(日)
受付開始 15時30分
- 2) 講演会 : 16時～17時
講師：清宮克幸氏
演題 : 「栄光の早稲田ラグビー・・・
勝ちつづけるためには」
- 3) 懇親会 : 17時～19時
- 4) 会場 : 目黒雅叙園 3F シリウスの間
目黒区下目黒1-8-1
電話 03-3491-4111
- 5) 交通 : JR 山手線、東急目黒線、
地下鉄南北線、都営三田線、
目黒駅下車、行人坂下る
徒歩5分
東急、都営バス権之助坂・
日の出学園前下車 徒歩5分
- 6) 会費 : 会員8,000円、家族5,000円
当日会場にてお支払下さい。
当日キャンセルの方は、予約の
都合で会費のご負担をお願い
します。

- 7) 送迎 : 目黒稲門会専用の送迎バスの
運行はありません。
- 8) 出欠 : 会報に同封のハガキにて、
12月20日までにご返送下さい。

講師のプロフィール



清宮克幸(きよみや かつゆき)氏

1967年大阪府生まれ。大阪府立茨田高校でラグビーを始め、3年次に花園の全国大会に出場。高校日本代表にも選出される。

1986年早稲田大学入学。1年からレギュラーになり、2年次に日本選手権優勝。大学卒業後、1990年サントリー(株)に入社と共に、サントリーラグビー部に入部、1992年～94年には主将を務めるなど中心選手として活躍。

2001年に引退後、早稲田大学ラグビー蹴球部監督に就任。就任後5年連続で関東大学対抗戦全勝優勝、大学選手権も3度制覇し、早稲田ラグビー復活の原動力となる。2006年、5年振りにサントリーラグビー部へ監督として復帰。監督2年目の2007年度に、サントリーを初のトップリーグチャンピオンへと導く。2009年シーズン終了と共に監督を辞任した。現在NPO法人ワセダクラブの専務理事として活躍中。

(島田 記)